

舘野 泉

ピアノリサイタル



2009年9月27日(日)

小海町音楽堂／ヤルヴィホール

主催 / 小海町教育委員会・知恵の泉

<プロフィール>

館野 泉 (ピアノ)

1936年東京生まれ。60年東京芸術大学首席卒業。64年よりヘルシンキ在住。68年、メシアンコンクール第2位。同年より、フィンランド国立音楽院シベリウス・アカデミーの教授を務める。81年よりフィンランド政府の終身芸術家給与を得て、90年以降は演奏活動に専念。06年「シベリウス・メダル」授与。演奏会は世界各地で3000回以上、リリースされたCDは100枚にのぼる。人間味溢れ、豊かな叙情性をたたえる演奏は、世界中の幅広い層の聴衆から熱い支持を得ている。この純度の高い透明なる抒情を紡ぎ出す孤高の鍵盤詩人は、02年脳溢血（脳出血）により右半身不随となるが、04年「左手のピアニスト」として復帰。その左手のために間宮芳生、ノルドグレン、林光、末吉保雄、吉松隆、谷川賢作等第一線で活躍する作曲家より作品が献呈される。命の水脈をたどるように取り組んだ作品は、静かに燃える愛情に裏打ちされ、聴く人の心に忘れがたい刻印を残す。06年、全委嘱作品によるリサイタルツアーを行う。左手の作品の充実を図るため「館野泉左手の文庫(募金)」を設立。07年、吉松隆ピアノ協奏曲「ケフェウス・ノート」（館野泉に捧ぐ）をドレスデン歌劇場管弦楽団と初演し、大きな反響を巻き起こす。08年、末吉保雄、cobaの新作を含む全委嘱作品（『左手の文庫』助成）によるリサイタルを各地にて行う。同年秋、長年の音楽活動の顕著な功績に対し、旭日小綬章を叙勲、同時に文化庁長官表彰を受賞。エッセイ集「ひまわりの海」（求龍堂刊）、左手のコンチェルト（佼成出版社刊）、左手によるCDは、エイベックス・クラシックスより「風のしるし」など5枚リリース。南相馬市民文化会館（福島県）館長、日本シベリウス協会会長、日本セヴラック協会顧問。2010年は、演奏生活50周年を迎える。



平原 あゆみ(ピアノ)

「温かみある豊かな色彩感、しなやかな詩情と生き活きとした躍動感、音楽に見事な生命力を与える。音そのものに強烈な存在感をもち、清澄な音色、情熱と気品とがともに調和する秀逸。」

桐朋学園大学音楽学部演奏学科を卒業。第9回フッペル平和祈念鳥栖ピアノコンクール・グランプリ、鹿児島新人演奏会・県知事賞受賞。

2004年より三度にわたりオウルンサロ(フィンランド)音楽祭に参加し、ソロ、室内楽などで活躍する。NHK-FM「名曲リサイタル」に出演。2006年5月に東京にてデビューリサイタルを行い本格的な演奏活動をはじめ。07年、舘野泉リサイタル全国ツアー「吉松隆の風景」に出演。7月セヴラック音楽祭(フランス)に招かれる。08年、舘野泉ピアノリサイタルの共演者として各地にて公演を行う。吉松隆：四つの小さな夢の歌(三手連弾曲)とプレイアデス舞曲集ⅣがCD「アイノラ抒情曲集(吉松隆作品集)」の中に収録され、エイベックス・クラシックスからリリースされている。現在、舘野泉氏の唯一の弟子として研鑽を積む。鹿児島生まれ。

プログラム

コーディー・ライト：アメリーのための組曲(舘野 泉のために) *世界初演

木島 由美子：いのちの詩(舘野 泉に献呈) *世界初演

休憩

塩見 允枝子：架空庭園 第1番 (舘野 泉に献呈) *世界初演

コーディー・ライト：祈り(三手連弾) 共演：平原あゆみ

パブロ・エスカンデ：ディヴェルティメント(舘野 泉に献呈) *世界初演 ほか

コーディ・ライト:「アメリーのための組曲」(鑑野泉のために)

1 ファンファーレ 2 リフレクション 3 アライヴァル

「アメリーのための組曲」は作曲家の長女の誕生を記念して、ピアニスト鑑野泉より委嘱された作品である。三曲ともある有名な子守唄に基づいており、全てのモチーフ的素材はこの子守唄に由来する。聴衆は、各曲にこの子守唄の断片を聴き取ることができるかもしれない、またそれを見いだすことができなかつた者に対しては、作品の最終に答えが提示されている。(コーディ・ライト)

木島由美子:「いのちの詩」(鑑野泉のために)

どんなに大事件が起ころうと、どんなにひとが苦しよう、どんなに戦争しよう、どんなにひとが死のうと、季節はめぐり、いのちはめぐります。めぐるいのち…生きることは、愛すること。愛があれば未来につながります。愛があるから、何かあっても生きなくては…と思います。全編に「love」を音列に置き換えたモチーフ「E・A・A・E」をちりばめました。四季それぞれを連想させるキーワードをもとに、5曲で構成しました。

1. 驟雨: 蒼葉にふる雨の音楽。
2. 紅蓮の池: 夏に咲く紅蓮、地獄の炎にも例えられる紅蓮。美しさ、逞しさ、激しさ。
3. 月詠: 日本古来の月の神様の名前が「月詠(つくよみ)」です。呼びかけあうように、神様が呼びかけるのは…たれ?
4. 樹氷原にて: 世界的に有名な山形の樹氷をイメージしました。静かに、荘厳に。
5. 桃花水: 桃の咲く頃に流れ出す水、つまりは雪解け水のことをさす言葉です。せつないワルツを。

季節がめぐると、冒頭の雨の音楽に戻ります。何事もなかったかのように…。(木島由美子)

****休憩****

架空楽団 第一番 An Imaginary Garden No.1 (鑑野泉のために)

鑑野さんが、左手のピアニストとして見事に活躍なさって以来、新曲を献呈させて頂きたいと、かねてから構想を練っていました。願わくは、彼のスケールの大きさと自然への深い共感を、僅かでも反映できるような作品を書きたいものと——。まず、この太陽系の惑星の英語名(Mercury, Venus など)に含まれる文字を組み合わせると、十個のドイツ音名(c, cis, es, e など)が導かれます。それを基に、三種類の音階を作りました。この曲はそのうちの一つで出ています。作曲法としては、幾つかの異なった特徴を持つ音形を、モザイク風に組み合わせるといふ、一種の対位法によっているため、テンポが頻りに変わります。演奏者には真新しいかもしれませんが、それは各音形がそれぞれ固有のテンポを持っているからです。宇宙空間を発想の源としながら、出来上がった曲は、どうやら地球上の自然や生命への賛歌となってしまったようです。これは三部作の一曲目で、つい先日、全曲が完成しました。(鑑見允枝子)

コーディー・ライト: 祈り (三手達弾 共演: 平原あゆみ)

「祈り」はわたしの義理伯父様(篠野泉の甥)の父であり、2006年に他界した鎮島忠雄を偲んで書いた曲である。作品は前奏、嘆き、天恵の三部より構成されている。主たるモチーフは故人、そして私自身がこの上なく愛す「フィンランディア賛歌」である。(コーディー・ライト)

バプロ・エスカンデ:ディヴェルティメント(篠野泉のために)

ディヴェルティメントは、日本語で遊曲と訳されているが、イタリア語で娯楽という意味を持つ。最初にディヴェルティメントという言葉が使われたのは、1681年のグロッシの作品であった。その後フィッシャー、ドゥランテなどにより使われ、ポノチーニによって様式が確立される。古典派の時代に最も盛んだったディヴェルティメントは、カッサシオン、セレナーデ、ナハトムジークなどと同じような意味合いを持っていた。主に、演奏者と聴衆に歓びと癒しを与えること、貴族の食卓、娯楽、社交、祝賀などの場で演奏されることを目的とされていた。ロマン派では一度没落したが、20世紀初頭リレーク、ストラヴィンスキー、ジャン・フランセなどにより復活した。

私が作曲したディヴェルティメントは、4つの異なった楽章から成る。全ての楽章は4度音程で関連づけられていることで、8つの調を通して締めくくられている。様式はネオ・バロックで、ギリシャ旋法を用いた。

第1楽章 プレリユード

ゆっくりとした導入から始まり、緊張感を高めながらアレグロのパートに急転する。軽やかなアレグロは、対位的で2部形式によりできている。

第2楽章 セファルディム (ユダヤ・スペイン系の古歌)

テーマとヴァリエーションの主題は、セファルディム (ユダヤ・スペイン系) の古くから伝わる歌を用いた。この主題を基に4つの変奏が繰り返り広げられる。4つめのヴァリエーションでクライマックスに達した後、カデンツァが続き、最終に再び主題が現れる。

第3楽章 アダージョ

大変穏やかで平和に満ちた曲である。静寂の中にある自分自身の経験と日本の庭園に見出したものをこの曲に込めた。

第4楽章 ダンス

アダージョとは対照的に、ヴィルトゥオーソで生き生きとした推進力のある曲である。ABA形式で書かれている。ディヴェルティメント本来の意味である“楽しみ”を、作曲家、演奏家がだけでなく、聴衆の方々にも感じて頂けたら嬉しく思う。(バプロ・エスカンデ)